

新たな品種等の導入による低コスト再造林技術の確立

林業研究室 渡邊雅治

背景

戦後造成されたスギ・ヒノキ人工林は成熟し、本格的に利用可能な段階を迎えており、今後、伐採・利用の増大が見込まれる。

このような中、森林の多面的機能を維持・発揮させつつ、森林資源の循環利用を図るためには、伐採後の確実な再造林の実施が必要となるが、その推進には森林所有者への収益還元率の向上が不可欠であり、造林から伐採までのトータルコストの低減による低コスト施業体系の確立が急がれる。

目的

成長の早いスギ・ヒノキ新品種“特定母樹”^{※1}や近年着目される“早生樹”^{※2}の導入による低コスト施業体系の確立を図る。

※1 特定母樹とは、優良な種苗を生産するための種穂の採取に適する樹木で、成長等に優れたものを農林水産大臣が指定したもの（当該試験では県内産及び三重県産F1苗を使用）

※2 早生樹とは、従来の造林樹種よりも特に成長が早く、比較的短伐期で収穫が可能な樹種の総称

具体的な取組

1 スギ・ヒノキ特定母樹の試験植栽・調査

スギ・ヒノキ特定母樹の植栽試験地を追加設定するとともに、生育調査及び既設試験地での下刈り省略試験を実施した(図1・2)。その結果から、下刈りの有無が植栽木の成育に影響を及ぼしていることが分かった(図3)。

2 早生樹の試験植栽・調査

各種早生樹の植栽試験地を追加設定するとともに、生育調査・病虫害被害の調査、センダン特有の施業“芽かき”の実施・検証等を行った。その結果から、樹種毎の成育状況(図4)や、病虫害被害の発生状況、センダン通直材生産のための芽かきの効果(図5)等を把握することができた。

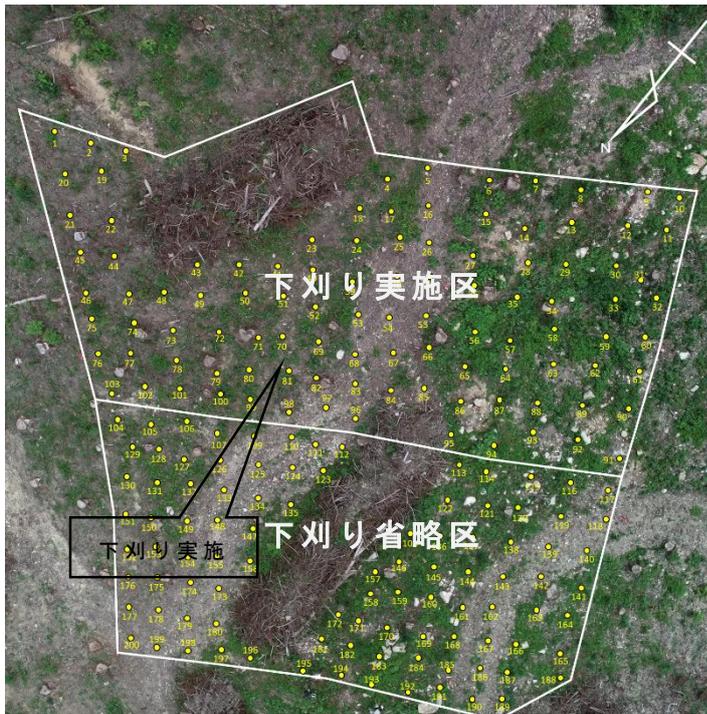


図1 下刈り省略試験実施区域図
(基盤ヶ嶽スギ特定母樹植栽試験地)



図2 下刈り省略試験
実施状況 (基盤ヶ嶽スギ
特定母樹植栽試験地)

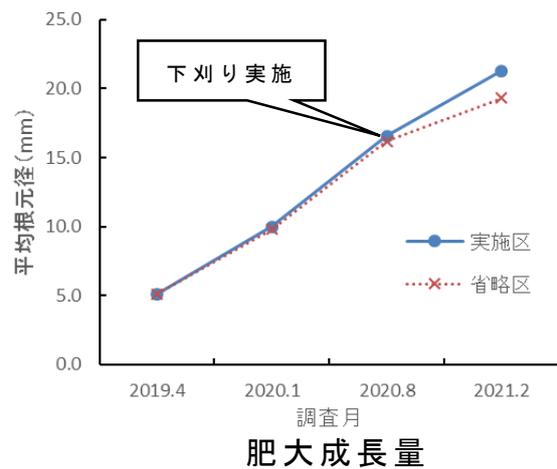
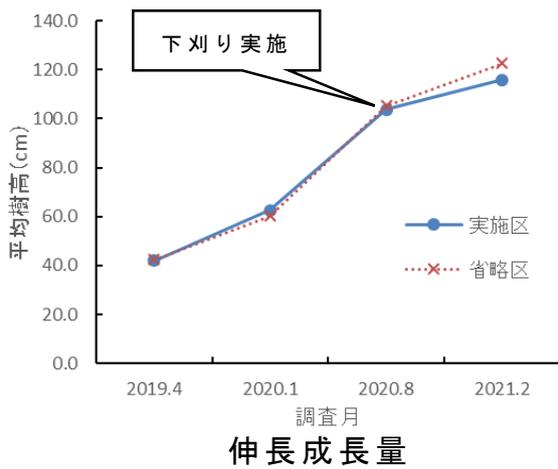


図3 下刈り実施区と省略区の植栽木成長量比較
(基盤ヶ嶽スギ特定母樹植栽試験地)

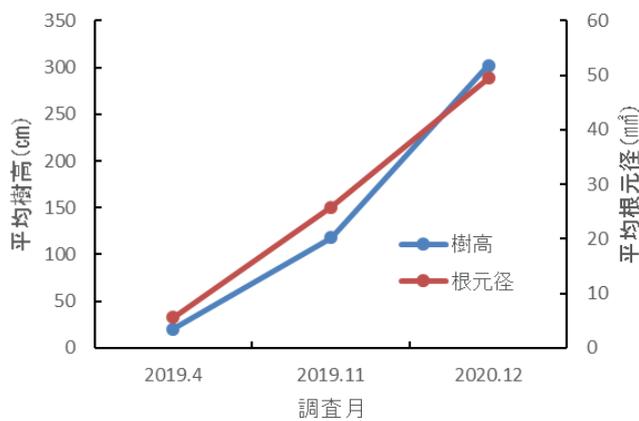


図4 センダンの生育状況
(西厚保試験地)



図5 センダン芽かき
試験実施状況